



新造RORO船（敦賀―苫小牧航路） 第1船「ひだか」が敦賀港へ初入港しました。

平成27年1月30日（金）、敦賀港と苫小牧港を結ぶRORO船国内航路に近海郵船（株）の新造船「ひだか」が就航し、敦賀港に初入港しました。近海郵船（株）の新造船は、平成14年以来13年ぶりとなります。

「ひだか」の初入港を歓迎し、船内で歓迎セレモニーが開催され、敦賀市の塚本副市長から石川船長へ敦賀港初入港記念盾が贈呈されました。

RORO船国内航路は、同じく敦賀港と苫小牧港間に就航しているフェリー航路とともに、関西・中京圏等と北海道を結ぶ国内物流の拠点となっており、3船体制で週6便運航しています。今回は3船のうちの第1船目であり、第2船は本年5月下旬、第3船は8月下旬に順次就航する予定です。

新造船「ひだか」は、全長約180m、幅27m、満載喫水6.8m、総トン数11,500GT。車両積載能力はシャーシ160台、乗用車50台で、現在就航している2船（ほくと・つるが）と比べてシャーシ積載能力が約3割増となり、輸送能力の向上によりさらなる物流の活性化が期待されます。

※RORO船とは：Roll On Roll Off Ship（ロールオンロールオフ船）の略で、「乗り込んで、降りる」という意味を持っています。船尾や船側に船体と岸壁を結ぶ「ランプウェイ」を備え、トレーラーなどの車両を収納する車両甲板を持っていることで、クレーンを使わずに船の中にトレーラーやフォークリフトが自走して乗り込み、直接貨物の積み降ろしが出来る船のことです。

フェリーは旅客と貨物を輸送するのに対して、RORO船は貨物のみを輸送するという違いがあります。



敦賀港へ初入港した新造船「ひだか」



鞠山北A, B岸壁に接岸した「ひだか」



RORO船内部車両甲板



敦賀市塚本副市長からの記念品贈呈